

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 9 月 13 日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25501025

研究課題名（和文）観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築

研究課題名（英文）Theory construction of Tourism Studies on Fostering of Human Resources Contributing to community Design and Regional Development by Tourism

研究代表者

橋本 和也（HASHIMOTO, KAZUYA）

京都文教大学・総合社会学部・教授

研究者番号：90237933

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,000,000円

研究成果の概要（和文）：なぜいま「観光人材育成のための理論」が必要とされるのだろうか。観光には様々なアクターが関係する。観光業界では、人材育成に関するノウハウや「考え方」「マネジメントに関する理論」などが蓄積されており、いま改めて「理論」を必要としているわけではない。必要とされているのは、従来とは異なる観光の新たな領域での人材育成に関する理論である。求められているのは、単なるマネジメント系の理論ではなく、これまで直接的には観光産業に関係してこなかった「産・官・学・民」の人材が、グローバルな観光の潮流と同時にローカルな観光実践に対処する、「世界的な観光現象に対処するローカルな人々」にとって必要な観光学理論である。

研究成果の概要（英文）：Why should we construct "the theory on fostering of human resources for tourism?" Many kinds of actors participate in the sphere of Tourism. Tourism companies had already accumulated the technical knowledges and skills about human resources development and theories of management. But it is in the new sphere that the theory on fostering of human resources is needed. That is the sphere where the public sector, private sector, and industrial and academic circle are collaborating together for coping with global touristic trend and with community development. We intend to construct the theory on fostering of human resources for community development by tourism.

研究分野：観光学、観光人類学

キーワード：観光人材育成 観光まちづくり論 観光学理論 創造型観光 産官学民の連携 県観光計画 ファシリテーター 地域芸術祭

### 1. 研究開始当初の背景

京都文教大学文化人類学科では本研究代表者を含む4名が2003年から2006年まで科研基盤(B)「人と人をむすぶ地域まるごとミュージアム構築のための研究」を行った。その研究で培った成果をもとに、終了後も地元宇治に修学旅行で訪れる高校生・中学生にフィールドワーク学習を提供する「プログラム」や「商店街個性店づくりプロジェクト」、地域文化である宇治茶や宇治茶の生産の現状について学生自身が学び、その魅力を市民に広く伝える活動を実施するPBL型の取り組みである「宇治茶レンジャー」プログラムなどの実践教育を行い、地域と連携した人材教育を大学でカリキュラム化し、2008年に文科省のGPプログラムとして研究分担者の森正美が代表者となって採用された。しかしながら、このような実践を積み上げてきたものの、これらの実践の基盤を支える理論構築はまだ不十分である。今回の応募は、観光まちづくりと地域振興に貢献できる地域の人材育成のための理論を構築する必要性を痛感したことを契機としている。

本研究分担者はみな、学生のみならず観光まちづくりにこれまで従事してきた人々のために理論的貢献ができるような新たな観光学の確立を目標に活動を展開している。近年は産業界からも、これまでのような狭義の観光ではなく、ローカルとグローバルな総合的視点を持ち、地域と世界を同時に見渡し、地域政策・マネジメント・ビジネスなどを視野に入れたクリエイティブな人材育成を可能にする新たな観光学が期待されている。本研究は、産業界だけではなく、行政、地域、大学、すなわち「産・官・民・学」が連携する観光学的人材育成プログラムと理論の確立に貢献しようと構想された。

企業や行政、そして地域において活動する人材には、「産官民学」連携のための基盤やのための観光学的知識や理論的な裏付けの必要性があらためて認識されている。システムを整備することも求められおり、そのための観光学的知識や理論的な裏付けの必要性があらためて認識されている。

### 2. 研究の目的

「観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築」というタイトルに表現されているように、京都文教大学の教員がこれまで積み上げてきた学生と地域との連携実践のみならず、現在実行されている観光まちづくりの現場で「産・官・民・学」で連携して活動している人々のために貢献できる理論構築を目的としている。観光研究は様々な分野で活発になってきており、大学にも観光学部が設置されてはいるが、現場の実践を支え、企業・行政・地域を巻き込んだ新たな観光を創造するための理論的な基盤整備やシステムはまだ不十分である。本研究では、とくに人材教育に焦点を当て、

地域での複雑な問題に対処しうる実践と理論的な総合的検証能力を持った人材育成に貢献できる観光学理論の構築を目指している。

### 3. 研究の方法

本研究では、大学の学生を観光の現場と理論構築に貢献できる総合的視点を持つ人材に育て上げることはもちろんであるが、すでに観光まちづくりを社会において実践している人々のために貢献することも視野に入れている。そのための人材やその後継者となる人材育成のための観光学的な理論構築を、本研究は目的としている。そのための年次計画を次のように考えている。

(1) 平成25年度は、研究分担者の各研究課題の検証を行う。既存のとくに観光学的人材育成に関する論点から批判的に読み返し、問題点を明らかにする。同時に人材育成の先進的な事例として、大学や企業・行政における成果をはじめ、観光まちづくりなどで後継者育成に成功している地域から情報を収集し、代表的と思われるものを選出し、必要な場合には予備調査を行う。

(2) 平成26年度以降は、収集した事例に関する本格的な調査と検証を行う。各研究分担者の研究課題に関する事例を各自が調査し報告するだけでなく、同じ事例を全員で調査し成果を共有する。共同調査を全員で行い議論する意義は大きく、これまでも成果をあげている。平成27年度は、調査・報告・検討を同様に行いつつ、総合的な視点を持つ人材育成のための理論構築を本格化させていく。平成28年度は、調査の整理と理論構築のためのまとめを行い、補足調査を行う。

### 4. 研究成果

研究成果としては、『中間報告書』と『最終報告書』を2冊作成し、期間中の成果をまとめて掲載した。

2014年4月に「中間報告書」(全145頁)を作成した。第1部は「観光学術学会第3回研究大会」においてフォーラム『産官学民の連携に基づく観光人材育成』に関する理論の構築に向けて」を主催した。立教大学豊田由貴夫教授「観光人材育成に関する理論の構築は可能か? - 立教大学観光学部の事例から」、阪南大学吉兼秀夫教授「キャリアゼミによる課題解決型人材育成」、北海道大学(現北陸先端科学技術大学院大学)敷田麻実教授「効果的・地域人材育成とは? - 北海道の北の観光リーダー養成事業の先進的トライアル」、京都文教大学森正美教授「地域プラットフォーム型人材育成における学際生と専門性をめぐる課題」、和歌山大学廣岡裕一教授「コメントとディスカッション」を掲載した。第2部は、松本大学福島明美講師による「地域と大学の協働・共創による地域づくりを育む」、阪南大学教授松村嘉久教授による「阪南大学における観光人材育成の活動に

ついて」の話しをまとめた。第3部では、2013年9月「九州ツーリズム大学について」の調査、2014年8月「北の観光リーダー養成セミナー」についての調査報告を掲載した。

2017年3月には『研究成果最終報告書』(全206頁)を作成した。第一部<観光人材育成の背景>、第1章堀野正人「観光まちづくり論の変遷における人材育成の位置づけ - 経営・政策志向を相対化する研究視角の必要性」(産官学民) 第二部<観光人材育成の動向と展望>、第2章遠藤英樹「大学における観光学理論はどこに向かうべきなのか?」(学) 第3章金武創「県観光計画における観光人材育成」(官) 第三部<実践事例報告>、第4章山田香織「サイト・スペシフィック・アートプロジェクトから観光人材育成について考える - 地方開催の芸術祭における運営体制に注目して」(産官民) 第5章片山明久「創造型観光における観光教育 - 地域連携学生プロジェクトの活動から」(学民) 第6章滋野浩毅「観光まちづくり人材としてのファシリテーターの役割」(産学民官) 第四部<観光人材育成の理論構築の可能性>、第7章森正美「観光まちづくり人材を人類学的手法で育てる意義・世代を超えた取り組みの模索」(学官民) 第8章橋本和也「産官学民の連携に基づく観光人材育成のための理論の構築に向けて」 第五部<第3回観光学術学会フォーラムの再掲載>。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計31件)

2016年・橋本和也「スポーツ観光の提案 - パフォーマー・観光者の視点から」『スポーツ人類学研究』18号 pp.23-31 査読有

2016年・橋本和也「スポーツ観光研究の理論的展望パフォーマー・観光者への視点」『観光学評論』4巻1号 pp.3-17 査読有

2016年・遠藤英樹「The Interconnection between Popular Culture and Tourism」*Asian Journal of Tourism Research* 第1巻1号 pp.114-127 査読有

2016年・遠藤英樹「観光における伝統の転移 - 合わせ鏡に映る鏡像としての地域アイデンティティ」『立命館文学』649号 pp.102-112 査読有

2016年・遠藤英樹「モビリティ時代におけるポピュラーカルチャーと観光の相互接続 - 観光的地場に惹かれるポピュラーカルチャー」『立命館文学』650号 pp.13-25 査読有

2016年・堀野正人「観光における真面目と遊び」『奈良県立大学研究季報』27巻4号 pp.87-94 査読有

2016年・堀野正人「観光待ち尽く炉の変遷に関する一考察 - 人材育成とかかわらせて」『奈良県立大学研究季報』27巻2号 pp.65-91 査読有

2016年・片山明久・竹下・大中・片山ゼミ「京都府宇治市におけるアニメ響け! ユーフォニウムに関わる観光現象について」『コンテンツツーリズム学会論文集』第3巻 pp.23-33 査読無

2015年・遠藤英樹「ダークツーリズム - ダークネスへのまなざし」『月刊地理』60巻(6) pp.38-47 査読有

2015年・遠藤英樹「グローバル時代の新たな地域研究 - シンガポールを事例とした考察」『立命館文学』645号 pp.11-24 査読有

2015年・遠藤英樹「ダークツーリズム試論」『立命館大学人文科学研究紀要』110号 pp.3-22 査読有

2016年・岡本健「コンテンツツーリズムの可能性と課題」『日本政策金融公庫調査月報』658号 pp.38-43 査読無

2016年・岡本健「コンテンツ化こそ観光振興のキモ」『金融ジャーナル』57(1) pp.86-87 査読無

2015年・岡本健「地域におけるサブカルチャーイベントのあり方 - 奈良公園サマーコスプレフェスタ及び『燈花会の彼方』の調査結果から」『地域創造学研究』(奈良県立大学研究季報) 第26巻(2) pp.1-21 査読有

2015年・堀野正人・戸田・野高・岡井・岡本健「金沢市における学生のまちづくりに関する調査報告」『地域創造学研究』(奈良県立大学研究季報) 第26巻(2) pp.23-34 査読有

2015年・岡本健「コンテンツツーリズムの現場から見る空間概念 - 現実・情報・虚構空間をめぐる観光旅行のあり方」『月刊地理』60(6) pp.20-28 査読有

2016年・片山明久「コンテンツツーリズムに対する観光学的考察 - 旅行者によるものがたりの創造」『同志社政策科学研究』20周年記念特集(別冊) pp.19-26 査読無

2014年・堀野正人「記号としての観光対象 - D・マキャネルの所説に照らして」『観光学評論』第2巻(1) pp.3-13 査読有

2014年・橋本和也「近代社会の構造分析のための観光研究」『観光学評論』第2巻(2) pp.169-173 査読有

2014年・岡本健「コンテンツと神社・神話の関係性 - 観光資源としての物語・地域・文化」『コンテンツツーリズム論叢』第5巻 pp.28-35 査読有

2014年・堀野正人・戸田清子・岡本健「横浜における近代化遺産の保存と活用に関する調査報告」『地域創造学研究』第25巻(1) pp.73-83 査読有

2014年・岡本健・川口充勇・西村雄一郎「奈良にある大学と地域 - 若手教員に学ぶ」『奈良女子大学文学部研究教育年報』11巻 pp.35-54 査読有

2015年・岡本健「Otaku tourism and the anime pilgrimage phenomenon in Japan」*JAPAN FORUM* Vol.27(1) pp.12-36 査読有

2015年・岡本健「メディアコンテンツと刊行、都市、コミュニティ - 情報社会のサードブ

レイスとしてのアニメ聖地」『地域創造学研究』第25巻(2) pp.193-212 査読有  
2014年・堀野正人「都市の演出空間の変容 - メディアとしての空間を中心に」『奈良県立大学研究季報』25巻(2) pp.179-192  
2014年・片山明久「コンテンツツーリズムと日本人の旅に関わるメンタリティ - アニメ聖地における祭礼を事例に」『コンテンツツーリズム論叢』5巻 pp.20-26  
2013年・橋本和也「観光学の新たな展望 - なぜ、いま観光経験なのか」『観光学評論』第1巻(1) pp.19-34 査読有  
2013年・遠藤英樹「人文・社会科学における観光論的転回 - 生成的なディシプリンへの呼びかけ」『観光学評論』第1巻(2) pp.129-144 査読有  
2013年・堀野正人「記号としての観光対象 - D・マキャネルの所説に照らして」『観光学評論』第2巻(1) pp.3-13 査読有  
2013年・橋本和也「宗教ツーリズム研究の幕開け」『観光学評論』第1巻(2) pp.227-230 査読無(書評)  
2013年・岡本健「さまざまな点をつなぐこと」『観光学評論』第1巻(1) pp.107-108 査読無(書評)  
2013年・遠藤英樹「書評 大野哲也著『旅を生きる人々 - バックパッカーの人類学』」『ソシオロジ』58巻(1) pp.171-179 査読無

〔学会発表〕(計 20件)

2016年・片山明久「ものがたり創造による新しい文化の定着」日本文化政策学会第10回年次研究大会・静岡文化芸術大学  
2017年・橋本和也“Local Art Festivals and Local Culture Tourism -Is Local art indigenized as local culture?” *The International Seminar on Tourism in Asia: Change and diversity* 於 Chiang Mai university. 招待講演、国際学会  
2017年・遠藤英樹“Transference of Traditions in Tourism: Local Identiteis as Images Reflected in Infinity Mirrors” *The International Seminar on Tourism in Asia: Change and diversity*. 於 Chiang Mai university 招待講演、国際学会  
2016年・遠藤英樹“Politics of Urban landscapes in Tourism” 中日人文地理与観光研究所国際セミナー 上海師範大学 国際学会  
2016年・橋本和也「スポーツ観光研究の提案 - パフォーマー・観光者の視点から」日本スポーツ人類学会、於陸名鑑大学朱雀キャンパス  
2015年・橋本和也「大学における観光人材育成と理論構築について」観光学術学会、於阪南大学  
2015年・遠藤英樹「ポピュラーカルチャーに誘発される観光、観光に誘発されるポピュラーカルチャー」中日人文地理与観光研究所国

際セミナー、於上海師範大学  
2015年・遠藤英樹“Interconnection between Tourism and Popular Culture” *The International Seminar on Tourism in Asia: Change and diversity*. 於 Chiang Mai university 国際学会  
2015年・金武創「文化遺産と県観光政策」文化経済学会、於駒澤大学  
2015年・岡本健「コンテンツツーリズムの素材としての工場景観 - テクノスケープとオタクスケープ」経済地理学会 62回大会、於尼崎中小企業センター  
2016年・片山明久「コンテンツツーリズムによる伝統的祭礼の活性化 - 埼玉県秩父市を事例に」日本文化政策学会、於高崎経済大学  
2015年・片山明久「京都府宇治市におけるアニメ『響け! ユーフォニアム』に関わる観光現象について」コンテンツツーリズム学会、於西部文理大学  
2014年・金武創「観光ボランティアガイドの基本問題 - 生涯学習の支援か観光振興か」観光学術学会 於京都文教大学  
2014年・森正美「地域プラットフォーム方人材育成の学際性と専門性に関する課題」観光学術学会 於京都文教大学  
2014年・岡本健「コンテンツツーリズム学の可能性 - アニメ・漫画の観光活用を超える神社巡礼 - 漫画・アニメで人気の聖地をめぐって」コンテンツツーリズム学会 於法政大学 招待講演  
2014年・岡本健「コンテンツツーリズムとは何か? 奈良県の動向・富山へのアドバイス」コンテンツツーリズム研究学会 於富山国際会議場  
2014年・岡本健「コンテンツツーリズムの政策的動向と旅行者・地域の実相 - アニメ・マンガの観光利用を超えて」経済地理学会関西支部例会 於大阪市立大学  
2014年・片山明久「旅行者が関与する地域の文化政策の可能性」日本文化政策学会 於京都橘大学  
2013年・堀野正人「記号としての観光対象」観光学術学会 於奈良県立大学  
2013年・遠藤英樹「人文・社会科学における観光論的転回」観光学術学会 於奈良県立大学

〔図書〕(計 20件)

2016年・遠藤英樹・岡本健共編著『メディアコンテンツ論』ナカニシヤ出版(全272頁)  
2017年・遠藤英樹単著『ツーリズム・モビリティーズ - 観光と移動の社会理論』ミネルヴァ書房(全196頁)  
2016年・遠藤英樹分担執筆、松本健太郎編『理論で読むメディア文化 今を理解するためのリテラシー』新曜社(全288頁)  
2016年・遠藤英樹監訳 アンソニー・エリオット&ジョン・アーリ著『モバイル・ライブズ - 移動が社会を変える』ミネルヴァ書房

(全 266 頁)

2016 年・片山明久分担執筆「旅程作成支援の方法」『京都修学旅行の魅力』寺本潔・澤達大編著『観光教育への招待』ミネルヴァ書房(全 165 頁) pp.153-157、p.118

2017 年・金武創分担執筆、「ニューツーリズム」谷口知司・福井弘幸編『これからの観光を考える』晃洋書房(全 193 頁) pp.123-137

2015 年・遠藤英樹分担執筆 西垣通・伊藤守編著『よくわかる 社会情報学』ミネルヴァ書房(全 217 頁)

2015 年・遠藤英樹・松本健太郎共編著『空間とメディア - 場所の記憶・移動・リアリティ』ナカニシヤ出版(全 281 頁)

2015 年・遠藤英樹分担執筆 立命館大学地理学教室編『観光の地理学』文理閣(全 336 頁)

2015 年・堀野正人分担執筆「メディアとしての都市の演出空間-内へいて期空間からロケーションへ」遠藤英樹・松本健太郎共編著『空間とメディア』ナカニシヤ出版 pp.27-45

2015 年・岡本健編著『コンテンツツーリズム研究』福村出版(全 224 頁)

2016 年・片山明久分担執筆「あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない - コンテンツを契機とした常在文化の定着」「地域の観光・文化政策における旅行者の役割」岡本健編著『コンテンツツーリズム研究』福村出版(全 224 頁) pp.142-143, pp.180-183

2015 年・片山明久分担執筆「消費型観光の限界と地域社会のディレンマ」「地域の伝統的祭礼とアニメ聖地巡礼」井口貢編著『観光学事始め』(全 271 頁) pp.48-61, pp.110-123

2015 年・森正美担当分「日本における多元的法体制とアイデンティティ-文化的建艦を巡る方主体と葛藤」森正美・角田猛之・ヴェルナー・メンスキー、石田慎一郎編著『法文化論の展開 - 方主体のダイナミクス』信山社出版(全 384 頁)

2014 年・大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編著『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版(全 303 頁)

2014 年・遠藤英樹・寺岡伸吾・堀野正人編著『観光メディア論』ナカニシヤ出版(全 281 頁)

2014 年・遠藤英樹・松本健太郎・江藤茂博編著『メディア文化論』ナカニシヤ出版(全 239 頁)

2014 年・岡本健編著『神社巡礼 - 漫画・アニメで人気の「聖地」をめぐる』エクスナレッジ(全 159 頁)

2014 年・片山明久分担執筆「漫画・アニメで人気の聖地をめぐる神社巡礼」『神社巡礼 - 漫画・アニメで人気の「聖地」をめぐる』エクスナレッジ pp.132-137

2013 年・岡本健単著『n 次創作観光 アニメ聖地巡礼 / コンテンツツーリズム / 観光社会学の可能性』NPO 法人北海道冒険芸術出版(全 102 頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

橋本和也 (HASHIMOTO Kazuya)  
京都文教大学・総合社会学部・教授  
研究者番号：90237933

##### (2) 研究分担者

堀野正人 (HORINO Masato)  
奈良県立大学・地域創造学部・教授  
研究者番号：30305742

遠藤英樹 (ENDO Hideki)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：00275348

森正美 (MORI Masami)  
京都文教大学・総合社会学部・教授  
研究者番号：00298746

金武創 (KANETAKE Hajime)  
京都橘大学・現代ビジネス学部・准教授  
研究者番号：50309069

片山明久 (KATAYAMA Akihisa)  
京都文教大学・総合社会学部・准教授  
研究者番号：10625990

##### (3) 連携研究者

( ) 研究者番号：

##### (4) 研究協力者

滋野浩毅 (SHIGENO, Hiropi)  
京都文教大学・総合社会学部・准教授  
山田香織 (YAMADA, Kaori)  
香川大学・地域連携戦略室・特命講師